

# にはお

中国語を学ぶ会

平成14年9月発行 第14号

連絡先 0463-33-3177

神山 FAX 32-5594

## 大家身体好吗？

七月早々から何回も台風に見舞われ、その後も毎日のように厳しい暑さが続きましたが皆さんは元気一杯にて日夜中国語の学習に励んでいることと思います。

このところ中国に関係するニュースが相ついで報じられています。なかでも減肥薬の服用で肝臓障害や死者まで生じてしまったショックな事件がありました。

瀋陽領事館亡命者事件も記憶に新しいですね。これをきっかけに外務省職員の特権意識が浮き彫りとなりましたが、こんな人達に外交を任せておいて大丈夫なのでしょうか。ちよつと心配です。

続発する金庫やATM機盗難事件もどうも中国人がからんでいるのが多いらしいですね。

輸入野菜に農薬が含まれているのも中国産品だそうです。

中国や中国人が好きで中国語を学んでいる我々としては悲しい 생각이いたします。

百円ショップの商品はほとんどが中国製。日本のメーカーも製造拠点を人件費の安い中国に移しています。これからの日中関係はどうなっていくのでしょうか。

## 対中国 ODA は必要か？

1972年の日中国交正常化を経て、79年に大平内閣が中国の近代化支援策として援助を始めた対中 ODA (Orderly Development Assistance) は 2000 年度には 2274 億円、その累計援助額は 2 兆 9 千億円を上回るといわれる。ODA とは政府による発展途上国援助であるから、現在の中国に対してはもう必要無いとの見直し論が叫ばれている。

中国の国防予算は 14 年連続 10%以上の伸びを示し、今年度も前年比 17.6%の増加。日本の援助が軍備拡張のために使われていないか、経済発展が著しく既にその必要はない、多額の援助に対して全く感謝の意を表していない、などが見直し論の主な内容だ。

中国は日本からの援助を受ける一方で 2000 年には 96 の国と機関に総額 7500 万ドル (約 512 億円) もの援助を行なっているのだ。川口外相は当面抜本見直しの考えはないといっているが、不況にあえぐ中小企業に、また職を失い路頭をさまようサラリーマンにその一部でも回す事ができないものかと考えてしまう。

急成長する中国経済、軍事大国化への道を歩んでいる中国の現状を考えればこのままで良いのだろうか。

はてさて、門外漢にとって政治とは不可解なものである。

## 日中国交正常化 30 周年

前号にても触れたが、正常化 30 周年に当たる今年各地でさまざまな行事が予定されている。

9月22日には北京の中華世紀壇(北京オリンピック開催確定の際に多くの市民が集まり歓喜した場所)で日中両国公式イベント「北京 10000 人の大祭典」が行なわれ、両国政府代表の挨拶や芸能公演・花火打ち上げなどが予定されている。

23日には人民大会堂(日本の国会議事堂に当たる)を貸し切りで近畿日本ツーリスト主催の「北京大夜会 in 人民大会堂」が行なわれる。親善セレモニー・京劇や雑技を楽しみながら国賓級の宴会料理(故田中首相訪中の際の歓迎メニューの一部)が食べられる晩餐会が開かれる予定だ。

この二つの会に参加するつもりなので次号でご報告しようと考えている。





葉山に七桶という所があり、七桶地蔵や、今は無いが七桶の碑などがある。七桶とは一体何か? それにはこんな話がある。昔昔、おばあさんが蛸をつかまえて、一本の足を切ってはひとつの桶に入れて家に運んできたが、七本終わって、八本目を取ろうとした時、反撃に出た蛸に絞め殺されてしまった。最近まで森戸海岸には大きい岩があり、そこには実際蛸が住んでいたそうだが、海水浴客の邪魔になるとかで壊してしまっただ。おばあさんが蛸にやられるという話は地元の人に聞いたところでは、瀬戸内など他の地方にもあるようだ。この蛸の話聞いたとき、最近読んだ江戸時代の「日本山海名産図会」の中の「たこ」の項を思い出した。この本は絵入りの日本各地のいろいろな名産を集めたもので「こまじめな本なのだが、なぜかこの項だけはうっそ、ほんまかいな」という話ばかり。

一日の食に間に合うとか。全く想像するとマンガのような話ばかり並んでいる。七桶の話にもどると、ここには七桶地蔵と言うのがあり、その昔石製のお地蔵さんが漁の網にかかっていたので祀ってあるそうで、二十一年に一回しか見ることができない、秘仏である。毎月二十三日には人々が集まって念仏を唱える念仏講を行なうそうだが、若い人は来ないし、年寄りばかり七人くらいで細々とやっているそう。もう十年もすればそれもなくなってしまうかもしれない。海辺の村では海から仏像が上ったとか網に引つかかったとかで信仰の対象になっていたものも非常に多い。平塚にもある。漁師にとっては海は魚だけでなく、海藻やら貝やらいろいろの恵みを与えてくれる場所、七福神が舟に乗って海のかなたからやってくるのを見てわかるように、福は海からやってくる。また難破船でも打ち上げられようものならまさに福の神到来。

お題目を唱えらう、またはやふしぎ。そこらのさざえはみんな角を引っ込め、角なしさざえになったのであります。日蓮を背負った男はその後、横須賀に庵を作り、今の龍本寺という寺の元になったという。ふしぎふしぎのあわびとさざえは今でも龍本寺の宝物であるそう。この寺は勿論日蓮宗だが、建物は江戸時代のもので二百年程経っており、結構古くてりっぱである。ちなみに街中の和菓子屋では角なしサザエ最中など売っている。

さて、横須賀に到着した日蓮は二十一日間洞窟にこもって修行し、鎌倉に向かったのであるが、その洞窟は今も「お穴さま」として人々の崇敬の的になっている。小さな穴である。その後、鎌倉での日蓮は、去年のNHK大河ドラマ「時宗」を見た方はご存じのとおり、もういじめられっぱなしである。奥田日蓮も口をへんの字にして熱演していた。その後、幕末には黒船がきて、ひなびた漁村だった横須賀も造船所が出来た事からあつたという間に軍港として栄えるようになった。

海からは福や坊主や神様だけでなく、天然痘(流行った村では病人に着せた赤い着物を舟に乗せ、海に流していた。その舟の着いた村ではまた病気が流行ったという)やら異人さんやら戦やら何やらかんやら、何でも海から来たという取り留めのない話でした。



中国語に濁音は無い?

中国語を習い始める時、最初に学習するのが「拼音」つまり中国語の発音表記である。これをしっかりと身に付けておかないと、あとあと正しい中国語の発音がおぼつかなくなる。

「拼音」には我々が知っているローマ字とは違った読み方や約束事がある。それを無視すると、例えば yan をついローマ字式にヤンと読んでしまったりすることがある。

さてこの問題は別の機会にゆずるとして「中国語に濁音はあるのか無いのか」について考えてみよう。たしかにピンインには ba, da, gong, zang など濁音で読みたくなる表記がたくさんある。

ここで思い返してみよう、中国語には有気音と無気音があるということ。...

ある入門書によると、b と p, d と t, g と k など濁音と清音の区別ではなく、無気音と有気音の区別を示すものと記されている。さらに、無気音とは子音を発音すると同時に気音が生ずる間隔をおかずに直ちに母音を発声し始める。濁音にはならない。有気音とは子音の発音の直後に気音が生ずるだけの瞬間の間隔をおいて母音を発声し始める、と書かれているがこの説明はどれも判りにくい。

これを私流に解釈すると、なにか事件が起きて「大変だ!」と叫ぶ時の taihen と「ゆで卵」の tamago、この二つの ta をピンインで表記すると前者が ta (有気音) 後者が da (無気音) となるのではなかろうか。だから、「だいへんだ!」とは言わないが「ゆでだまご」と言ってもそれほど違和感はないだろう。

さて、「爸爸」には baba というピンインが付いている。これを同学の中でパーバと読む人はまずいないだろう。カナ通りに読むのは難しいが、この場合はバでもなく、パでもなくその中間的でどちらかというところ。つまりこれが無気音の ba の音であると思うのだが……。

私のご幼少?の頃、ある国の人たちを

揶揄する言葉として「〇〇、〇〇とパカするな……」などと口まねしていたのを思い出す。〇〇の部分にはある国の名が当てられるのだがそれは想像にお任せするとして、つまり朝鮮系・中国系の人たちにとって「馬鹿にするな」の日本型濁音の ba が日常使い慣れていないために日本人には pa と聞こえてしまうのだろう。逆に我々日本人にとって有気音と無気音を使い分けるのはむずかしい。例えば gang と kang, bing と ping などのように……。この両方も敢えてカナで書けと言われれば私は両方ともカン、ピンと書きガン、ピンとは書かないだろう。発声すれば無気と有気の違いがあるのは勿論であるが……。

さて、もう少し「ba」にこだわってみよう。例えば「八宝菜」(bābǎocài) をパアパオツアイと発声してはいないだろうか? むしろパアパオツアイとしたほうが正しい中国語により近いと思われるのだがどうだろうか。だから「打电话」だってダアディンホアよりはタアティンホアのほうがよりネイティブの発音に近いのではないかと思う。つまり ba とか da とかの拼音を見ると我々日本人は永年の習慣で「バツ」「ダツ」という破裂音を使ってしまうことが多いのではないかと考える。前に述べた卵の ta、爸爸の ba のように息を強く出さない b, d, g, j, z, zh, などで始まる無気音、そして p, t, k, q, c, ch など始まる有気音がごく自然に出せるようになりたいものだ。

以上はあくまでも筆者の思い込み、これを読んだら老師などの発音に今まで以上に注意深く耳を傾け、それは違うよと考える方、いやその通りだと思う方、ぜひ次の「にいはお」に間に合うようにご意見を投稿してください。

それでは、このへんで 再見!





## Do it yourself

我很喜欢做木工制品。とは言っても作るものは身の回りの小物が中心だ。例えば壁に掛けるちょっと装飾性に富んだ棚、卓上のたばこやライターを収める小箱、リモコンラックなどなど。テレビの上を利用するため、大小五つもの引き出しのついた飾り棚……これはテレビ上面の傾斜に合わせて安定をはかった自信作だ。

自分であれこれ考えて作ったものもあるが、通販や折り込みチラシなどを参考にした物も多い。

最近の傑作は一歳半の孫のために作った木馬だ。トイザラスに足を運んだり、通販雑誌の小さな見本写真を見たりして方眼紙に三面からのラフな図を描く。よしとなれば、縮尺三角スケールを使って出来るだけ精密な縮尺図を描く。箱ものとは違い、湾曲部や傾斜部の多いものは図面をしっかりと描き込まないと良い作品を作ることが出来ない。さらに、首・脚・下の半円形の部分などは木を型どる時のために実物大に引き伸ばす。

図面を眺めながら、座るところの高さは適当か、足かけに足が届くだろうかなどと心配の種は尽きない。

つぎはロイヤルホームセンターに行って材料の物色。材質・厚さ・幅など図面を思い浮かべながら適当な材料を選ぶのも楽しみの一つだ。

材料が整えばよいよ制作の開始だ。直線切りは手馴れた作業だが、曲線部はジグソーで慎重に切り抜かなければならない。

パーツが揃ったら、サンダーで丁寧に磨きをかける。表面に凹凸があると完成後にニス塗るとき影響を受けるからだ。

組み立て作業はさらに面倒だ。脚部は下面と上面とで幅が違うので接着部が斜めになる。半円形部のどの辺から脚を立ち上げ



るかによって脚の長さが微妙に違ってくる。しかし苦勞が多ければ多いほど作品への愛着は深くなるものだ。最初のうちは抱いて乗せてやった孫も、あつという間に自分で自由に乗り降りできるようになり、前後に大きく揺らしながら楽しんでいる。それを見ながら目を細めているのが文字通りの爺馬鹿である。

そのほか、毎日便利に使っているものに書見台がある、健康器具の背骨伸ばし器（そろばん玉様のものを半月形に並べその上で背骨を伸ばす）も通販カタログを盗用したものだ。

これらや木馬のように材料を買ってくる事もあるが、ほとんどは廃物利用である。家の近くのスーパーでリンゴの木箱を貰うことが出来る。材質は良くないが釘を抜いて解体しておけば、なにかを作ろうとするときに極めて便利である。

もう一つの収集先は工事現場である。最近木造住宅建築が結構盛んで、現場には切れ端などがたくさん捨ててある。手頃なものが見付かると「棟梁！」と呼びかけて分けてもらう。どうせ焼却してしまう物だがかなり魅力的な木材が混じっていることがある。こうして集めた木材を大事に保管しておく、いざと言うときに役に立つものだ。この間はツーバイフォー（2対4のやや平たい角材）の木片で積み木を作ってみた。ずっしりとした質感があり売っている物とは比較にならない良さがある。

木工細工をするには作業台と工具が不可欠である。小さな作業用の台と椅子も廃材を用いて作ったものを使っている。工具ものこぎり・かんな・のみなどは勿論、斜め切りができる鋸とか、垂直に穴がかけられるドリルの補助具とかをホームセンターで見かけるとつい買ってしまふ。電動工具も次第に増えてきた。鋸・ドリル・サンダー・トリマー・ジグソー・ボール盤・かんな・ディスクグラインダーなど。

完成品を見ればなんてことは無いが、構想を練り、図面を描き、材料を集め、幾日もかけて作業を進める。これがなんと楽しいことか、時間の経つのを忘れてしまう。

今も、いくつもの手作りスイングボードが夏の風を受けて庭先で軽快に回っている。くるくると……。

## 量り売り

“苹果多少钱?” “十二块一斤” “那梨子呢?” “十六块” (正確な値段は忘れたが) 道端の屋台に水果 shuǐ guǒ (くだもの) を山と積み上げて売っていた男は、私の質問にこうぶっきらぼうに答えた。

中国の小売りは量り売りが基本であり、このように小売の単位は斤 (500 グラム) なのである。これを「论斤卖」lùn jīn mài とする。论は介詞で ～によって、～で、などの意味を持ち、斤によって売る、即ち「量り売り」となるわけだ。

しなびた苹果 píng guǒ (りんご) 色の悪い梨子 lí zǐ (洋梨のような形の梨) だったがどんな味だろうかと、つい買って見たくなったのだ。

さて、皆の衆! 1斤の値段はわかったが1斤で何個くらいあるのかが不透明。えい! ままよとばかり“我要两个苹果, 三个梨子” 彼はリンゴとナシを5個一緒に竿秤の皿に載せ、目方を量り出した。なななんと? 単価の違うものを一緒に量るのか! 抗議する言葉などどききに出てくるわけが無い。彼は竿ばかりの分銅を器用に操って計量を済ますと、さっと合計金額を算出し私に告げた。

大した違いでもないのであきらめて支払ったが、彼の暗算力の素晴らしさ? と果たして計量が合っていたのかどうかの疑問が残った。

真っ黒に汚れた竿秤の竿、あれで目盛りが読めるのだろうか? 読めたとしても客側からは何斤を指していたのか全く判らない。それを納得して買物をしている中国人はさすが大人である。



## 黄色は、中国の色

中国の文明を生んだ「黄河」、山水の名勝地としての名山「黄山」、最近脚光を浴びてきた四川省の秘境「黄龙」、大安吉日は「黄道吉日」、伝説上の皇帝「黄帝」、「黄袍加身」は皇帝の位に就くこと、などなど「黄」は頂点・尊厳・吉祥などを表すことによく使われている。

中日辞典の黄の項を開いてみると黄花=菊の花、黄昏恋=老いらくの恋、黄梅季=梅雨など、黄色にあまり関係無いことにも使われている。もちろん黄土高原とか黄砂など黄色を表すものもある。

小説「山の郵便配達」(那山那人那狗) の中に「父亲和儿子的手背, 同时拂过一抹毛茸茸的东西——是狗, 大黄狗」……

(父と息子の手は同時に毛がふさふさした犬、大きな黄色の犬をそっとなでた) というくだりがある。(映画ではシェパードだったが) なに! 黄色い犬? と一瞬訝ったがどうも彼らの考える黄と、日本人が考える黄色とは異なるようだ。

あか牛を黄牛、招興酒を黄酒と呼ぶように黄は褐色を指しているらしく「黄狗」もあか犬が正解のようだ。

ところで、中国を代表する酒は白酒だが度数が40~60度とあってはきつすぎるので今では啤酒(ビール)が愛飲されている。黄酒は日本では招興酒とか老酒とか呼ばれている。もち米を原料とした醸造酒で度数は日本酒と同じ14度程度、素焼きの甕で醸成しているうちにあの色と香りが付いて来る。燻をしてザラメ砂糖を入れて飲む輩を見かけるが、酒飲みとしては許せない。これでは本来の味が失われてしまう。

さてさて、本題の「黄色」から脱線してしまったようだが、締めくくりとして中国の黄は日本のピンクと共通するところがあることをお伝えしよう。例えばポルノ映画は「黄色电影とか黄片」ポルノビデオは「黄色录像带」また黄色小説など、黄色は墮落した・不健全な・エロチックなどの意味を持っている。

日本人にとって黄色は清楚・可憐などのイメージが強いのではなからうか。国が変わると色に関する感覚もずいぶん変わってくるものだ。



## 可怜的英国年轻姑娘

星期三班 落合一正

大概十年前我和老婆在欧洲各国各地旅行了两个星期。那时候在德国莱茵河(lái yīn hé ライン川)上跟爱人乘游览船坐在船头欣赏两岸美丽的景色。旁边儿也坐着三个外国人少女,她们愉快的聊天儿。看样子年龄十二三岁。我以为她们都是德国人,所以我问她们,“你们是不是德国人?”她们回答说,“不是,我们都是英国人”一个少女接着说,“趁暑假学校老师带领学生们来德国旅行”。我又问,“那么,从英国什么地方来的?”

“是英格兰中部 Peak District(高峰地区)来的”。“高峰地区?附近有什么城市呢?”我问。“有,叫谢菲尔德(xiè fēi ěr dé シェフィールド)”。我说,“知道了,那儿是英国中北部一城市,为钢铁工业中心”。我跟她们聊天聊了半天,劝她们吃带来的点心和糖果,她们喜欢吃。我们互相拍了照片。中途她们下船我就分手了。我们继续旅行过了一个星期回国。

回国不久,就收到了一封国际邮件。从谁那儿来的?我心里想。信封上写着 Christina Dunworth。我想起那个英国少女。信上写着如此,是这样的,“咱们在德国莱茵河上游船中碰到,我叫 Christina,是英国人。我希望你想起我。请尽快给我写信。”

我把在游船上拍照的照片加印了给她就邮寄了几张照片。这样跟她开始通信了。后来到去年在一月初十年之间一直在通信,每年互相通几次信。每年一到夏天她全家一起去希腊(xī là ギリシャ)过两个星期左右度假,那时候她一定给我用美术明信片写来信。我也有时候邮寄了日本月历或者日本特产东西。

## かわいそうな英国娘

十年ほど前家内とヨーロッパ各地を2週間ほど旅行した。その時ドイツライン河で遊覧船に乗り舳先に坐り兩岸の美しい景色を楽しんだ。すぐそばに3人の外国人少女が坐っていて楽しそうにおしゃべりをしていた。見たところ十二三歳ぐらいだった。彼女たちは皆ドイツ人だと思ったので、「あなたがたはドイツ人ですか」と尋ねた。「いいえ、ちがいます。私達はみな英国人です」。一人の少女が続けて言った。「夏休みを利用して先生がドイツ旅行に連れてきてくれました」。そこでまたきいた、「英国はどこからきたの」「イングランド中部の高地地方からです」「高地地方、近くにどんな都市がありますか」とたずねた。

「ありますよ、シェフィールドと言います」。「知ってるよ、英国中北部の都市で鉄鋼業の中心だね」。彼女たちとしばらくおしゃべりをしながら持ってきた菓子やあめをすすめると喜んで食べた。途中で彼女たちは舟を下り別れた。私達はあと一週間旅行を続け帰国した。

帰国後間もなく一通の外国郵便を受けとった。誰からかなと思った。封筒にはクリスチーナ・ダウンウォースと書いてあった。英国人のあの少女をおもい出した。手紙にはこのように書いてあった。「私達はドイツライン河の遊覧船の上で出会いました。私はクリスチーナといい、英国人です。私を想い出して下さい。お便りお待ちしております」。

私は船の上でとった写真を焼き増ししてすぐ送った。このようにして彼女と手紙のやりとりが始まった。その後去年一月初めまで十年間、毎年数回、絶えることなく文通が続いた。毎年夏になると彼女の家では家族そろって2週間ほどギリシャへ出かけた、その時彼女はきまって絵はがきで便りをくれた。私も時には日本のカレンダーとか日本独特の品物を送った。

给她每年年底互相交换圣诞贺卡。她大学毕业以后谢菲尔德在一个法律办公处工作,她在百忙中给我来了信,告诉我你要是你有机会来英国,请一定访问我家。这样我们互相常常通信,可是她去年一月初旬来过一封信,后来再没来信。

过了几个月依然没来。心里感到有点儿不安。我爱人对我说,

“Christina 最近没来信,怎么办呢?”七月初旬期待已久的一封信终于接到了。我把这封信看完了,就没想到在她身上发生了这么悲痛的事儿。

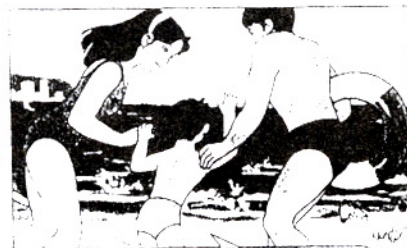
什么事?关于详细情形下次接着介绍吧。

毎年、年末にはクリスマスカードのやりとりをした。彼女は大学卒業後シェフィールドの法律事務所に勤め、忙しい中、もし英国へいらっしゃる機会があったらぜひ我が家を訪ねてくださいと言ってよこした。こんな風にお互いに手紙のやりとりをしてきた、しかし昨年一月初め手紙をよこしたきり、そのご手紙がとだえた。

数ヶ月たっても依然として手紙は来なかった。私は少々不安になった。「クリスチーナからこの頃手紙が来ないね、どうしたのかしらね」と家内が言った。七月の初め待ちに待った手紙がついに届いた。手紙を読み終えた時、彼女の身の上にごこのような悲しいことがふりかかろうとは夢にも思っていなかった。

どんなこと?詳しい事情については次号でお知らせします。

絵を見て作文講座 (看图作文)というページが私の購読している中国語雑誌にある。出題された絵を見て作文を投稿すると毎回一点が掲載される。今回たまたま私の作文が採用されたのでご参考までにそのコピーをご紹介します。



中国語150字以内でイラストの内容を描写して下さい。上手な作文をお送りいただいた方は紙面に掲載し添削いたします。

### 216号作文例

神奈川県 神山市

我儿子很喜欢游泳,夏季(里)每天就(都)去游泳池游泳,但他还没去(冲)过海水浴,所以他一再对我请求说:“(爸爸,)请把我带去(带我去)海边吧。”为(了)满足儿子的愿望,我就带着妻子和儿子去冲(了)海水浴子。那一天,刮微风波平浪静(风平浪静,)气温有三十多度,恰巧适于(正好适合)游泳,对儿子来说,(冲)海水浴是初次体验(还是第一次),所以开始(的时候他)小心翼翼地进去(入)海水里,可不久(儿子)就会(能够)游得很好了,我们在海边里尽情地玩耍,浑身晒得黝黑子。

### 作文讲评

- ① 「冲了海水浴」と「冲海水浴了」の意味は基本的に同じだが、「冲了海水浴」は「冲」という動作に重きがおかれ、「冲海水浴了」は過去の事情の叙述でしかない。
- ② 「开始」は動詞としての用法もあり、よく使われる単語なので、誤解を避けるために「开始的时候」のようにするとよい。
- ③ 「日焼けした」は、「晒黑了」あるいは「晒得黝黑」。「得～」は結果補語であり、「日焼けした」という「結果」を表しているため、「了」は不要だ。
- ④ 「刮微风波平浪静」と「恰巧适于」は間違っていないが、上記のように訂正すると、さらに自然な中国語になる。



## 音痴

「あんたオンチでないんけ？」と言いたくなるような人が世間には結構多い。その上面倒な事に私も含めてオンチである事を本人は判らないのだ。

音痴とは音に対する感覚が鈍く、声の調子や高低がうまくとれないため歌を正しく歌えない人のことを指す。つまり譜面どうりに発声が出来ない人のことだ。

中国にも音痴の人はいるらしく（当たり前だが）音痴を日中辞典でひいてみると「左嗓子」zuǒ sāngzi 「五音不全的人」wǔ yīn bù quán de rén 「走调」zǒu diào などが出てくる。

左ののどがどうして音痴なのだろうかと思ったら、左には「違う・間違っている」などの意味もあるようだ。次の五音、ドレミファは7音ではないか？しかし5線譜の5かな？音楽のことは全く判らないので多くは語るまい。走调は調子はずれということらしい。そう言えば「犬吠の葱」（銚子のはずれで節がない）なんて表現があったっけなどとつまらぬことを思い出す。

さて、こんなことはどうでも良いのだ。ここで言う音痴とはカラ OK（カラオケ）での音痴を論じようとしているわけではない。中国語にはご存じの通り声調、即ち四声というものが存在する。これを違えて発声すると全く違った意味になってしまうということもご存じだろう。ピンインにはこの声調を示す記号がついている。ところが、中国語音痴の人は音符通りに歌えない人と同じように、この記号通りに発声する事ができないのである。出来ないというより折角表示されている記号を全く無視してしまっているのではなかろうか。音符の高低を声で表現するのは難しいかも知れない。しかし四声というようにたった四つの記号なのだから、ちょっと注意すればそれほど難しいことではないように思えるのだが……。

生意気なことを言ってしまうと申しわけ無い。こう言う私だってしょっちゅう間違えてしまったり、さてなん声だったかなと迷ってしまうことが度々なのだ。

## 日中の倍数表現は似て非なり

“父の年齢は私の倍だ。”この場合の倍は2倍の意味だから、私が30歳なら父は60歳となる。ところが中国語では“父亲的年龄比我多一倍”となるのではなかろうか。つまり、父は私より1倍多いという表現になる。

我々は1倍という感覚を持ち合わせていないからややこしくなってくる。

三的二倍是六、九是三的三倍、これはすんなりと受け入れられるが、增加了1倍となると判りにくい。これは1倍分増えた結果2倍になったということを表しているのだ。

それでは、“工場の生産量が〇倍に増えた”という次の①と②について考えてみよう。

①工厂的产量增加到3倍

②工厂的产量增加了2倍。

①は増えた結果3倍になった

②は2倍分増えた（結果的に3倍になった）ということになり両者とも意味は同じになる。

同じような例をあげてみよう。

どうも最近食べ過ぎで①体重が3キロも増えちゃった。②体重が60キロに増えちゃった。

① 体重增加了3公斤

② 体重增加到60公斤

ここまで来ると“增加了”と“增加到”の違いに気付かれたと思うが、増加・増多・多・大などの後に〇倍がくると増えた部分を表し、増加两倍（3倍になる）多了3倍（4倍になった）大1倍（2倍の大きさ）となる。增加到〇倍は増えた結果を表すから“增加到3倍”は3倍に増えるとなる。

それではこの二つの表現を使って“私の月給は2倍になった。”と中訳してみよう。これは簡単に出来る筈だ。

それが出来たら次に“日本の物価は中国より2～3倍高い”に挑戦してみよう。

“日本的物价比中国高出1倍到2倍。”

これでどうだろうか？

どうも自信のないところが多い、お気づきの点があったらご指摘いただきたい。